動物実験に関する自己点検・評価報告書

和洋女子大学

平成 27 年 3 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果
☐ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 ☒ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験等管理規程」「和洋女子大学動物実験等管理規程実施細則」（機関内規程）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 平成 26 年 6 月に「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下基本指針という）」に準じた機関内規程「和洋女子大学動物実験等管理規程」並びに「和洋女子大学動物実験等管理規程実施細則」を制定した。しかし、規程において基本指針に定められている研究機関の長の責務について明確でないため、規程の修正が必要である。
4) 改善の方針、達成予定時期 平成 27 年度中に規程を改正し、研究機関の長の責務を明確に表現した条文にする。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果
☐ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 ☒ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験等管理規程」「和洋女子大学動物実験等管理規程実施細則」（機関内規程） 「和洋女子大学動物実験委員会名簿」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 平成 26 年 6 月に基本指針に準じた機関内規程を制定し、動物実験委員会を設置した。委員会の構成は、細則では「動物実験及び実験動物等に関して優れた識見を有する者 2 名以上」と掲げているが、基本指針では「動物実験等に関して優れた識見を有する者」、「実験動物に関して優れた識見を有する者」をそれぞれ分けて掲げており、細則の修正が必要である。
4) 改善の方針、達成予定時期 平成 27 年度中に細則を改正し、委員会の構成を分けて掲げるようにする。

3. 動物実験の実施体制

(動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告の実施体制が定められているか?)

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 ☒ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験の実施体制が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験等管理規程」「和洋女子大学動物実験等管理規程実施細則」(機関内規程) 「動物実験計画書」「動物実験委員会審査報告書」「動物実験委員会審査結果通知書」 「研究結果概要報告」
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 機関内規程に、動物実験計画書の立案、審査、承認の実施体制を定めている。しかし、規程および細則における動物実験計画書の提出先は実験動物管理者と、また細則における動物実験計画の承認は動物実験委員会が行うと定めており、基本指針と齟齬がある。さらに、細則において結果報告の実施体制について定めておらず、規程及び細則の修正が必要である。
4) 改善の方針、達成予定時期 平成 27 年度中に、規程及び細則を改正する。また、「動物実験計画書」「研究結果概要報告」の提出先を動物実験委員会委員長から学長へ修正するよう様式を変更する。加えて、「動物実験委員会審査結果通知書」を「動物実験計画書審査結果通知書」に名称変更し、通知者も動物実験委員会委員長から学長へ変更する。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

(遺伝子組換え動物実験、感染動物実験等の実施体制が定められているか?)

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。 ☒ 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)
4) 改善の方針、達成予定時期 平成 25 年度より検討委員会を設置し検討しており、必要に応じて遺伝子組換え動物実験の安全管理に関する規程を整備する。

5. 実験動物の飼養保管の体制

(機関内における実験動物の飼養保管施設が把握され、各施設に実験動物管理者が置かれているか?)

1) 評価結果 ■ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験等管理規程」 「和洋女子大学動物実験マニュアル」
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。) 機関内において実験動物の飼養保管施設は把握されており、実験動物管理者も置いている。平成 26 年 10 月に「和洋女子大学動物実験マニュアル」を定めたが、規程に定めている逸走の予防および逸走時の対応を明確化した表現に修正する必要がある。
4) 改善の方針、達成予定時期 平成 27 年 4 月に「和洋女子大学動物実験マニュアル」を改正する。

6. その他 (動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果)

(1) 文部科学省主催の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」等に関する説明会 (平成 26 年 9 月 8 日文部科学省東館 3 階講堂にて開催) に本学教員 2 名、職員 1 名が受講した。
(2) 平成 26 年度から公私立大学実験動物施設協議会に入会し、協議会主催の研修会「実験動物管理者の教育訓練」及び「動物実験委員会の教育訓練」(平成 26 年 10 月 30・31 日沖縄科学技術大学院大学にて開催) に本学教員 2 名が受講した。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

(動物実験委員会は、機関内規程に定めた機能を果たしているか?)

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験等管理規程」「和洋女子大学動物実験等管理規程実施細則」(機関内規程)
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。) 動物実験委員会は、機関内規程に定めた機能を果たし、適正に機能している。
4) 改善の方針、達成予定時期

2. 動物実験の実施状況

(動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が実施されているか?)

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験等管理規程」「和洋女子大学動物実験等管理規程実施細則」(機関内規程) 「動物実験計画書」「動物実験委員会審査報告書」「動物実験委員会審査結果通知書」 「研究結果概要報告」
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。) 動物実験責任者が立案した動物実験計画を動物実験委員会で審議し、その結果を学長に報告後承認している。また、動物実験責任者は実験終了後に結果を報告している。しかし、「動物実験計画書」「研究結果概要報告」の提出先が学長ではなく動物実験委員会委員長となっている。また、承認の通知は学長ではなく動物実験委員会が「動物実験委員会審査結果通知書」で実施しており、修正が必要である。
4) 改善の方針、達成予定時期 平成 27 年度中に、規程及び細則の改正とあわせ各種様式変更を行い、平成 28 年度より使用する。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

(当該実験が安全に実施されているか?)

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☒ 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。)
4) 改善の方針、達成予定時期

4. 実験動物の飼養保管状況

(実験動物管理者の活動は適切か? 飼養保管は飼養保管手順書等により適正に実施されているか?)

1) 評価結果 ☐ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験マニュアル」
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。) 平成 26 年 10 月に「和洋女子大学動物実験マニュアル」を定めたが、規程に定めている逸走の予防および逸走時の対応を明確に示す必要がある。また、飼養保管は適正に実施しているが、管理記録を残すよう「和洋女子大学動物実験マニュアル」に示す必要がある。
4) 改善の方針、達成予定時期 平成 27 年 4 月に「和洋女子大学動物実験マニュアル」を改正するとともに、平成 27 年度前期中に教育訓練を実施し、周知徹底させる。

5. 施設等の維持管理の状況

(機関内の飼養保管施設は適正な維持管理が実施されているか? 修理等の必要な施設や設備に、改善計画は立てられているか?)

1) 評価結果 ☒ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 施設内への実地検分調査と清掃記録と記録写真
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。) 年度末に動物飼育室の清掃及び消毒を実施、報告書を作成し管理できている。また、平成 26 年度動物実験に関する検証において、室内の物品の配置及び適切な表示を設けることと指摘を受けた事項についてすべて改善した。
4) 改善の方針、達成予定時期

6. 教育訓練の実施状況

(実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者等に対する教育訓練を実施しているか?)

1) 評価結果 ☐ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☒ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験等管理規程」
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。) 機関内規程に動物実験責任者及び動物実験実施者は教育訓練を受けなければならないと定めている。教員 2 名は平成 26 年 10 月に公私立大学実験動物施設協議会主催の教育訓練を受講したが、全員の受講に至っていない。平成 27 年度に学内で教育訓練を実施する必要がある。
4) 改善の方針、達成予定時期 平成 27 年度前期中に学内で教育訓練を実施するよう準備を早急に進める。

7. 自己点検・評価、情報公開

(基本指針への適合性に関する自己点検・評価、関連事項の情報公開を実施しているか?)

1) 評価結果 ☒ 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「和洋女子大学動物実験等管理規程」
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。) 基本指針に準じた自己点検・評価を行い、機関のホームページ上で情報公開を実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

(1) 平成 26 年度動物実験の実施における自己点検・調査に関する報告書集計 別紙 1 表 1
(2) 平成 26 年度動物実験実施結果 別紙 1 表 2
(3) 動物実験に関する検証における指摘事項とその改善について 別紙 2 表 3

表 1 平成 26 年度動物実験の実施における自己点検・調査に関する報告書集計

部局名 実施学類	動物実験計画書の審査		動物実験従事者及び飼養者数	飼養保管施設の設置状況	飼養保管施設から独立した実験室
	許可件数	不許可取り下げ数			
健康栄養学類	3	0	8	4	1
合計	3	0	8	4	1

表 2 平成 26 年度動物実験実施結果

所属	動物種	飼養数
健康栄養学類	ラット	36
	マウス	80
合計	ラット	36
	マウス	80

表 3 平成 25 年度動物実験に関する検証結果報告書での指摘事項および平成 26 年度での改善状況

	指摘事項	改善状況
I. 規程及び体制の整備		
1. 機関内規程	<ul style="list-style-type: none"> ・学内規程の再整備 ・マニュアルの作成 	<p>平成 26 年 6 月に学内規程及び細則を制定したが、改正の必要がある。</p> <p>平成 26 年 10 月に作成したが、改正の必要がある。</p>
2. 動物実験委員会	・動物実験委員会の委員追加	平成 26 年 5 月に任命。
4. 安全管理を要する動物実験の実施体制	・安全管理を要する動物実験に関する学内規程の制定	該当する動物実験は行われていないため、検討委員会での検討にとどまっている。
5. 実験動物の飼養保管の体制	・マニュアルの整備およびその公表	平成 26 年 10 月に整備したが、周知徹底するための教育訓練を実施していない。
II. 実施状況		
5. 施設等の維持管理の状況	・室内の物品の配置及び適切な表示	<ul style="list-style-type: none"> ・動物飼育室前室内のカラーボックスを戸棚に変更。 ・従事者以外の者が施設内に入らないよう立て看板を設置。 ・従事者の施設内の在室又は不在が把握できるホワイトボードを設置。 ・動物飼育室入口にシールマットを設置できるよう準備中。